

旧吉野川津慈地区の河川整備地における民間活力の導入に係るサウンディング調査を実施します！

green infrastructure
グリーンインフラ

- 「持続可能な社会」
- 「質の高いインフラ投資」
- 「国土の適切な管理」
- 「自然共生社会」への貢献

「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

地域の自然や野生生物を生かした地域振興を目指し、行政だけでなく、農家、市民、子ども、企業などさまざまな主体の参加が期待されます。

整備の方向性

津慈地区の目標と課題

目標

湿地を再生するにあたり、住民、学校や団体、企業などが活用・管理にさまざまな方法で関わるようにし、交流を通じて地域振興につながる場所にします。

検討課題

湿地のあり方と、民間事業者などの様々な主体による管理運営への参加方法を検討しています。

サウンディング調査の実施

整備される湿地の利活用及び管理運営のあり方を検討することを目的にサウンディング調査を実施します。

民間事業者の皆さまとの対話を通じ、**幅広く自由なご意見・ご提案を募集**します。

地域との連携

コウノトリを核とした、地域との連携による整備・管理・利活用



【位置図】



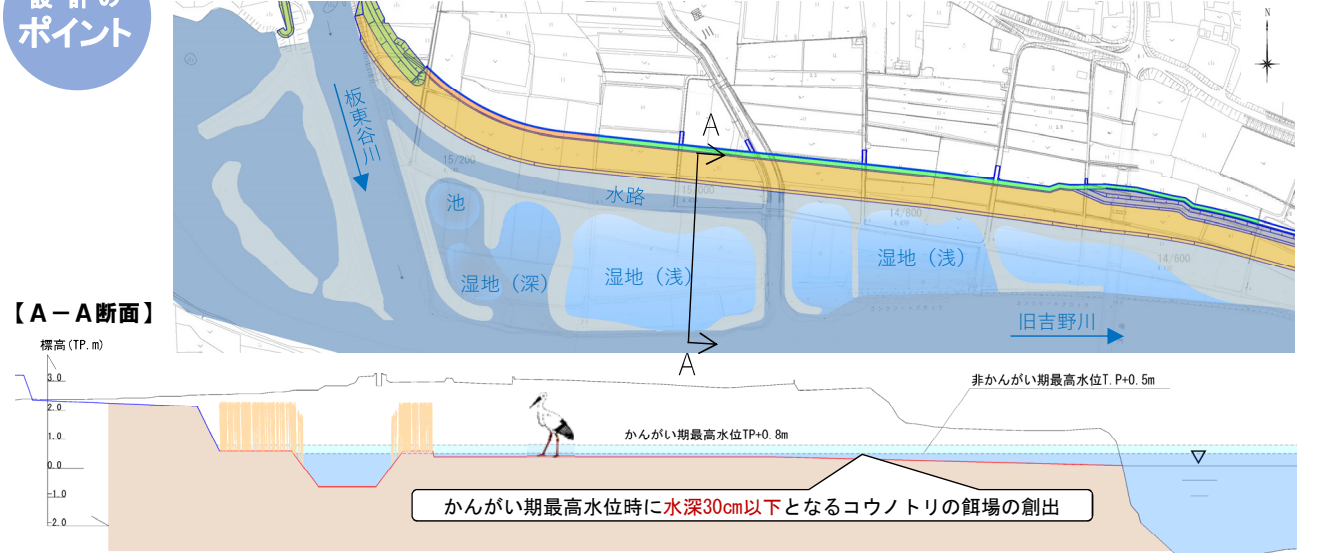
旧吉野川の津慈地区（鳴門市・藍住町）はコウノトリ営巣地の近傍にあり、コウノトリの定着と繁殖に向けた取り組みが地域で進められています。津慈地区周辺は広大な面積のれんこん畑が広がっていますが、夏場はハスの葉が生い茂るためコウノトリの採餌場にならないことから、自治体等による耕作放棄地のビオトープ化が進められています。津慈地区における河道掘削にあたっては、水辺空間を活用したコウノトリの定着（採餌場機能の確保）に寄与する湿地を創出します。

れんこん畑の面積（JA大津管内）	約170ha
ビオトープ整備面積	約4.5ha
湿地の減少面積（旧吉野川/s36以降）	約18ha
湿地の創出面積（津慈地区）	約8ha

設計のポイント

河川の水の動きに応じた湿地環境の創出

【湿地イメージ】



創出する湿地は、**河口堰運用水位の変動に合わせ、異なる水深となります。**

- 湿地（浅）・・・ 6～9月（かんがい期後半）にコウノトリの餌場となる水深30cm以下を確保します。
- 湿地（深）・・・ 2落時や非かんがい期にコウノトリの餌場となる水深を確保します。
- 池・水路・・・ コウノトリの餌生物の生息場となる多様な生息環境となる湿地にします。

周辺地域の取り組み

コウノトリと自然環境を生かした活動

【運営の枠組み】

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

『地域ワーキング』

鳴門地区生息環境づくりワーキング / 鳴門地区地域・人づくりワーキング / 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング

コウノトリ活動の啓発

- とくしま動物園や徳島阿波おどり空港でのパネル展実施
- コウノトリおもてなしれんこん等の物産品の開発・販売

コウノトリ定着への取組み

- 「コウノトリの定着に向けた取組」
- 人工巣塔、観察スペースの設置
- ビオトープの整備
- 水田魚道の設置
- 接近自粛要請看板の設置 等

環境学習・エコツアー

- 「餌場環境の維持管理等」
- 営巣地周辺の環境学習の実施や、清掃活動 等
- 「コウノトリ生息エリアのツアーを企画」
- ポタリングツアー 等

自然景観

- 河川の豊かな自然の活用

生態系との関係性

コウノトリと生態系ピラミッドの関係

コウノトリは、里地山や河川の生態系ピラミッドの頂点に立つ、高次消費者です。そのため、**コウノトリが生息することは、その食物となる多くの生きものが育まれる豊かな自然環境を有する証**です。

流域の生態系サービス向上のために、**自然環境の保全・再生を進め、モニタリング・維持管理を適切に実施することで、より多くのコウノトリが安定して生息**できます。

【コウノトリの生態】

コウノトリは、野生復帰を目指す大型の希少な水禽（水辺に棲む鳥類）で、国の特別天然記念物に指定されています。1971年に一度野生絶滅しましたが、その後野生復帰を目指した保護活動の結果、2005年から放鳥が始まりました。2015年に2羽のコウノトリが鳴門市に飛来、2017年より7年連続でヒナが巣立っています。また、コウノトリは水田などの湿地や水辺を主な採食環境とし、1日に約500gもの生きもの（魚やカエルなど）を食べる肉食鳥類です。